

ビブリア

発行 いわき市平上荒川字長尾30
福島工業高等専門学校
編集 図書委員会 ビブリア編集部
平成 6年 1月 20日

福島高専図書館報 第76号

巻頭言

頭の中の地図

頭のなかに地図がある。生まれてしばらくは、家の中やその周りについておぼろげな像を結ぶにすぎないだろう。やがて、幼稚園や小学校へ歩いて通うようになると家と学校を結ぶ線状の形ができあがってくる。身体がたくましさを増すにつれて、学校や家の周りでの遊びのテリトリーも広がっていくだろう。そうすると、頭の中の地図も膨らみを増して線状から面的に広がった2次元的な地図らしい形ができてくる。さらに、勉強したりテレビや新聞からの間接的な情報が加わり、またときには旅に出かけた体験もあつたりするだろう。こうして、人は地球の表面を次第に自分の頭のなかに取り込んでいくのである。

地図はそれ自体が情報の固まりである。学生諸君になじみの深い地図帳のどのページでもよいから開いてみよう。そこに含まれている情報はいわゆるアナログの形のものであるが、これをデジタル化するにはどうすればよいかちよつと考えてみてください。基本的には地図は点的なものとの線的な

もの、そして面的なものの3要素から成り立っているの、それぞれに分解して座標化し入力すれば事足りると思えるかもしれない。しかし、ことはそう単純ではないようです。まずスケールの問題がある。スケールが変われば面的に見えたものも線的にさらには点的にすら見えてくる。次に地図には主題というものがある。その意味で地図とは決して地表面を客観的にとらえたものとはいえないわけで、本質的に人間が特定の目的のもとで地球表面から切りとった主観的情報映像とでもいうべきものなのである。

この主観的映像を含めて、我々は地表面を頭の中できわめて個人的に再構成しているわけである。この頭の中の地図はメンタルマップと呼ばれて学問研究の対象にもなっているが、そんなことはおいといても、みなさん、自分の頭の中にどんな地図がいまあるのかを、大きな大きな模造紙の上にかいてみるとおもしろいですよ。

社会科教官 大関 泰宏

目次

| | | | | |
|-----------|------|------|--------|-------|
| 巻頭言 | 大関泰宏 | ・・・1 | 私の推す一冊 | ・・・10 |
| 在校生に薦める本 | | ・・・2 | 図書館だより | ・・・12 |
| FREE TALK | | ・・・7 | お知らせ | ・・・13 |

在校生に薦める本

《M・ムアルコック氏の作品》

機械工学科 5年 坪井 正一

本来なら、一冊の本について書くべきなのでしょうが、彼の作品は数多く読めば読む程、彼が素晴らしい作家であるということがわかるので、その中の一冊とせず、彼の作品すべてをお勧めします。

ジャンルはファンタジー小説です。元来、ファンタジー＝架空世界であるのですが、一般には、ファンタジー＝剣と魔法の世界であり、想像上の生物が生息する世界であると思います。

彼の作品はすべて彼の作ったある1つの架空世界の歴史の断片を描いているものであり、各々の作品がすべてクロスワードのように複雑に関連しており、そこに1つの矛盾も見当たらないところが彼の作品の素晴らしいところであると言えます。

ゲームの話をもつち出しますが、ロマンシング・サガというゲームは、最初に選ぶ主人公によって話は変わりますが、その世界の時代の流れは全く変わりません。同じ事柄の話でも、それを見る角度が変わっただけで、数多くの共通点を持ちつつも別の話が展開されます。もう1つはドラゴンクエストで、1-3までは同世界の別の時代を描いており、他の作品をやったことがなくてもその中の1つ1つはきちんとわかりますが、他の作品もやっていると感じる部分が増えます。

彼の作品は、時には、ロマンシング・サガのように、そして時にはドラゴン・クエストのように、各々の作品が密接な関係を持っています。もちろん、彼の作品のどれをとっても、みなおもしろい作品ばかりです。ファンタジー系の話が好きなのは、彼の作品を読まないもグリです。

《◇「逃亡者」の紹介◇》

機械工学科 5年 移川 秀弥

この題名を聞いたことがある人はたくさんいると思いますが、この小説は映画化された「逃亡者」の原作となった作品です。もともとは、往年の人気ドラマであり自分達の親の世代なら誰もが夢中になって見ていたことでしょう。なんと1952年にアメリカで放映された時は平均視聴率が45%、最終回に至っては72%という驚異的な数字を引き出したドラマだったそうです。

自分も最近、放映された映画を見に行つて十分に楽しみましたが、連ドラを二時間にまとめるのに無理があるのか、理解しづらい場面が幾ヶ所かあったので、今回原作であるこの本を読んでみようと思いました。

この小説の内容を紹介すると、まず主人公である外科医リチャード・キンブルの同僚が、被験者が死ぬようなくさんな研究作業によって開発された薬品を認可されるように報告書を捏造した。この事が漏れないようにするために、最も証拠を掴み易い位置のキンブルを妻殺しという罪にかけたことが始まりだった。死刑を宣告されたキンブルが刑務所へ向かう途中バスが横転し、逃走に成功する。彼が妻を殺した犯人について知っていることは片腕が義手であるということだけであり、冷徹な連邦保安官ジェラードの執拗な追跡から逃れて犯人を自ら捕まえることが、無実を証明し恨みを晴らす唯一の方法だった。

この本を読み終わると、片腕の男を追い詰める緊張感、ジェラードとキンブルの間に芽生えてくる相手へ共感などが伝わってくる。特に列車と護送車の衝突や追い詰められてダムに飛び込む場面などは、読んでいても映像が頭に浮かんでくるようだった。

まだこの小説を読んだことの無い人は一度本を手にしてみよう。最後まで一気に読めることは請け合いであり、読む価値のある本だと思う。

《 ～こんな本がおもしろい！？～ 》

電気工学科 5年 阿部 道

今回、「在校生に勧める本を」ということで、800字程度のスペースを頂いて、たいへんうれしいです。なぜって、他人に薦めた本が相手にも気に入ってもらえたら最高でしょう？（その逆もあるけど・・・）とりあえず読書感想文は苦手なので、少しずついきたいと思えます。

まずは、CALMP作のマンガで「20面相におねがい！！（角川）」と「東京パピロン（新書館）」です。「20面相・・・」は主人公達がお子さまのため、内容は幼稚です。しかしとってもほのぼのしていて、読者にも「しあわせ」が伝わるのではないかと思います。

「東京・・・」は東京を舞台に、日本の陰陽師の頂点に立つ皇家第13代当主、純粋で真っ白な心をもつ昂くん、その双子の姉でつかみづらいキャラクターの北都ちゃん、そして普段はおちゃらけた獣医でありながら、その眼鏡の下に隠された鋭い視線に謎の暗殺者集団・桜塚護としての彼が見え隠れする、ミステリアスなキャラクターである桜塚星四郎さん、そんな彼等の一言一言が現代の社会問題に痛烈に斬り込んでいく。さらに、それと並行して昂くんに対する星四郎さんの賭けの最終期限がせまる。ウーン、シリアス。読者の方々にグッとくるものがあることまちがいない！

CLAMPの作品はどれも、テーマは違えど作者達の主張が明確に伝わってくる。僕はそんな作品が大好きです。今回お勧めの本はこんな作品ばかりのようです。

次にお薦めするのは、さきに紹介したCLAMPによる表紙・口絵イラストで、文庫化された田中芳樹著「創竜伝（講談社文庫）」です。いいですよこの作品は。中国の伝説にいう四竜王の転生である始・続・終・余（はじめ・つづく・おわる・あまる）という冗談のような名前の竜堂四兄弟が、自分達を狙う

権力者達をその超越した力でバツバツと薙ぎ倒すというとっても痛快なお話です。何せ彼らは自称「力を持たぬ一般市民」でありながら、権力を盾にかかってくる不条理な輩を返り討ちにし、それどころか、お灸を据えて平然と帰って行く。そんな彼らはまるで水戸の黄門様御一行をほうふつさせる。

さらに、キャラクター達が揃いも揃って毒舌なんです。例えば、「竜堂始だな～なぜ返事をしない」、「家訓でね、初対面の相手呼びすてにする奴は、猿の仲間だから返事する必要はないとさ」、また「おれは警察官だ。」、「だったら、もつとていねいな口をきけ。おれは納税者だ」なんて、こんなやりとりがとっても楽しい。本当にお勧めです。

他にもいっぱいありますが、今回はこれまで、では。



《私の推薦図書》

電気工学科 5年 福田 洋一

初めて読書らしい読書をしたのは小学生の時だ。読んだのは図書室にあった「アルセーヌ・ルパン」シリーズ。全30巻ぐらいあったので、さすがに完全読破する前には飽きてしまったが、あらかたは読んだ。おもしろかったと思う。読んだことない人には、最初は「奇巖城」を勧める。中学の時に、従兄から紹介されて星新一にはまり、そこから北杜夫と筒井康隆を知り、その先は色々読むようになった。

が、やはり筒井康隆中心に読書の幅が広がったので僕が紹介できるのは殆どSFということになる。星新一はどれを取っても面白い。短い・簡単・面白い、そんな話を読みたい人にはいいと思う。北杜夫の作品で単純に笑って読めるのは「さびしい王様」という長編。

これと印象は変わるが「愉快の人々」「幽霊」なども読書好きの人にはよい、と思う。

最近絶筆宣言してしまった筒井康隆の作品

では、例えば長編で「霊鳥類南へ」、短篇集では、「串刺し教授」など、古い作品だけど初めて読む人には新鮮な驚きがあると思う。

取り敢えず読んでみたいと思う人は図書館書庫の一番奥にある棚の一番下にある昭和文学全集という赤い本の29巻に、「間接話法」という短篇がある。

他のSFを紹介すると、小松左京「復活の日」、山田正紀「幻象機械」、田中光二「最後の障壁」、新井素子「今はもういないあたしへ」、菅浩江「メルサスの少年」など。海外作品では有名なところでジェイムズ・ティプトリー・ジュニア「たったひとつの牙えたやりかた」、ジョージ・R・R・マーティン「フィーヴァードリーム」など。どれも面白いと思う。

突然だが向田邦子の作品を一つ「寺内貫太郎一家」思わずホロリときてしまう。

もう一冊はすごく変わった本を読みたい人に紹介する。ジェイムズ・ジョイスの作品で、柳瀬尚紀訳の「フィネガンズ・ウェイク」図書館にあるので、まず二、三行お試しあれ。

最近あまり読んでいないため、どうしても古い物ばかりの紹介になってしまった。清水義範、橋本治、草上仁、宮部みゆき、高村薫などがいいと思うが紹介出来る程は読んでいないため悪しからず。



《お薦めの一冊》

工業化学科 5年 吉田 秀和

さて、紳士淑女諸君、しばし御清聴あれ。私、本日の案内役を勤めさせて頂くものにございます。ここに取りだしたるは一冊の本。この中には一つの世界が詰まっているのでございます。いえいえ、御時間はとらせません。本の中では数十年の出来事も、我々にとっては、ほんの数時間なのですから。

『アルジャーノンに花束を』 ダニエル・キイス著、小尾 芙佐訳（早川書房）

33歳になっても、幼児の知識しかないチャーリー・ゴードンの人生は、罵り雑言と嘲笑に満ちていた。それでも、人のよいチャーリーは、少しも挫けず、陽気に生きていた。そんなある日、ある脳外科手術で頭をよくしてくれるという大学の先生の申し出に、飛びついたチャーリーを待っていたのは、連日の苛酷な検査。検査の競争相手はアルジャーノンと呼ばれる、同じ手術を受けた白ネズミ。チャーリーはこのアルジャーノンに奇妙な親近感を抱き始める。

手術を終えたチャーリーは今や、超知能をもつ天才に変貌し、何も知らなかった白痴から、新しい世界が開かれた。友情、愛、憎しみ、性、そして人生への悲哀、それらが渦巻く正常人の社会へと旅立つ。だが、彼の悲劇的な運命を暗示するかのよう、アルジャーノンは狂暴化し、死んでいった……。

皆様、いかがでしょうか。 ちよつと手にとってご覧になって頂ければ幸いです。



《映画をより深く見るために》

工業化学科 5年 大和 精彦

「人生は短い。この映画を観ればあの映画は観れないのである。」提案！「作家主義」という言葉を少しでも知って、もっと映画を深く楽しく観よう。実際、映画を観るに当たって、正しい見方など存在しないし、この「作家主義」など知らなくても、それなりに楽しく観れるのではあるが、単に話題性や流行で、と言った不純な理由はもちろん、出ている俳優が好きだからという様な理由だけで物語を追っているとすれば、あなたが映画に費やす時間の半分くらいは損していると断言してもいいだろう。では「作家主義」とはなにか……。多分、この字数では書ききれないに違いない。一口でいうなら“スターばかりでなく、もっと監督にも注目しよう”ということにでもなろうか。興味がある人は次に紹

介する本を読んでみて下さい。

まずは、山田宏一著『友よ 映画よ』。1960年頃、フランスの若き評論家たちが、それまでの伝統的な映画作り（映画文法、ストーリー性、撮影手段）にとらわれず、新しい方法で映画作りを始めた。

俗にヌーヴェル・ヴァーグと呼ばれている動きであり、彼らの手法は、今日ではごく普通の撮影技法となっているのだが、技法といっても技術面だけでなく、より大切な精神面でも彼らが映画に対してとったスタンスというものは、真新しいものであった。実際にヌーヴェル・ヴァーグの一員だった作者が語るこの本は我々の目に新しい映画的な視線を与えてくれるのに違いない。

次に挙げるのは、同じ作者による『トリュフォー ある映画的人生』である。長編第一作「大人は判ってくれない」で映画史に登場することになるヌーヴェル・ヴァーグの旗手フランソワ・トリュフォーの半生を描いた伝記である。少年院にも入った少年時代から、過激な発言で「フランス映画の墓掘人」とまで呼ばれた批評家時代、そして長編第一作を撮るまでが語られている感動的な書物である。

まず、この2冊を紹介したのであるが、福島高専図書館はその蔵書としてこれらを加えることになるだろう。なぜならそうすることが、ビデオ・コーナーをもつ機関としての良心的な使命だからである。補足的ではあるが、あと数冊挙げておこうと思う。

誕生100年を迎える映画の死を予感しながら、映画の死を無視してはもはや映画を撮ることはもちろん、見ることもできないという蓮沼重彦著『映画はいかにして死ぬか』が独自の視点で面白い。また、同じ著者による『ハリウッド映画史講義』によって、どちらかというとな楽観的なイメージを誰もが抱いてしまうハリウッドが、その見かけとは反対に、いかに荒廃しているかが、悲惨としか言いようのない50年代、60年代に焦点を当てて語られている。

以上、玉砕を覚悟の上、独断と偏見でこの

ような文章を書いてしまったわけであるが、それが映画の麻薬的な症状であり、中毒者のたわごとと思っただけで読んでいただければ幸いである。



《私の選んだこの3冊》（スポーツ、自然編）
土木工学科 5年 田子 勝順

今回、幾つかの本を紹介するにあたり、私には2つの問題があった。第1に、自分が今まで読んできた作品の中から、どれを選ぶかと言うこと。第2に、私が紹介する本から、第3者も同様に何かを感じ取り、面白い本だと思ってくれるだろうかと言うことである。

数日間いろいろ考えてみた。結局、後者は「読者の自由な感性によるものだから、意見の違いが出て仕方がない。」と言う結論に達した。私は、スポーツ・自然を題材にして書かれた作品を、好んで読む傾向があるので、前者の本の選択においては、その中から代表的なものを、3冊選んでみた。

最初に、私が紹介するのは、エディ・タウンゼントという名のボクシング・トレーナーの実話を書いた作品である（「エディ」山本茂）。世界J・ウェルター級チャンピオン藤猛に始まり、世界ストロー級チャンピオン井岡弘樹が誕生するまで、彼は臨時トレーナーとしてジムを渡り歩き、多くのチャンピオンを生み出した。「ボクサー（選手）とトレーナーとの間に必要な関係は、厳しい上下の服従か、それとも横の信頼と友情か。」を問う作品でもある。「負けた時が大事」と言った彼の言葉は、私の好きな言葉の一つである。

次に紹介するのは「沈黙の春」（レイチェル・カーソン著）である。土木工学科の学生は、必読すべき作品である。もちろん、他の科の学生にも、ぜひ読んでいただきたい。環境問題やエコロジーという言葉が発生したのは、つい最近のように思われるが、彼女は、約30年も前に、農業による地下水や土壌の

汚染、人間が生態系に及ぼす大きな影響を危惧していた。この作品の中で、彼女は、素人にも分かり易く、具体的な事例を示し、またその問題についても詳しく書いてある（活字が小さいのが、少し難である）。我々人間も、巨大な生態系の1グループであることを気付かせてくれる1冊である。

ところで皆さんは、フライ・フィッシングという釣り（＝スポーツ）をご存知だろうか。知っている人にも、知らない人にも、私がお薦めするのは、「マクリーンの川」（ノーマン・マクリーン著、原題“A RIVER RUNS THROUGH IT”）である。この作品は最初から最後まで釣りの話で書かれているわけではない。モンタナ州の大自然の中では“釣り”を媒介にして、親子、兄弟の絆・人生観について書かれている。前述の原題を読んで気付いた人もいると思うが、この小説は既に映画化されている。原作と映画、どちらも印象的な作品である。

この他にも、既に読み終えた本や、まだ読んだことのない本の中には、優れた作品が、まだまだ多く残っている。皆さんも、できるだけ多くの素晴らしい作品に出会えるように祈っている。



《自分から金を出してまで読みたい本》

土木工学科 5年 寺岡 大二

個人的に本は多く読む方だが、最近本当に面白いと思える本に出会ってないのが事実である。例えば、推理小説などは、昔はかなりの量を読みあさっていたが、最近ではめっきり読まなくなった。答は簡単。つまらないからである。推理小説の面白さは、謎解きにあるといえる。犯人は誰か、犯行の動機はいつたい何か、そしてそのトリックは、これらの要因が最後まで読者を引き付ける。

しかしそのトリックが話し半ばにして解ってしまったら、これほどつまらないものはない。そんな推理小説が最近が多すぎる。話の

ネタが貧困すぎるのである。これではいくら何でも自分から金を出してまで読もうとは思わない。

また、恋愛小説なんて読んでトリ肌がたってくる。（今まで1冊ぐらいしか読んでないけどね！）はつきりいって趣味じゃない。恋愛小説を読んで現実逃避するほど馬鹿じゃないし、恋愛小説の主人公のセリフにウツリしたり、涙を流すほど若くもない。恋愛小説に感動するには年をとりすぎたし、経験をつみすぎた（何の経験？）。恋愛小説が好きな人には悪いが、自分にとっては正直問題外のジャンルである。

SF、ファンタジーなどのジャンルもあまり好きではない。理由は簡単。ウソだから。しよせんは子供騙し。子供騙しに心を奪われるには自分の性格は冷たくさめすぎている。中には子供騙しではないものなども数多くあるが、自分から金を出してまで読もうとは思わない。あしからず。

エッセイは、書いている人によって、読む読まないが分かれる。だが最近あまり読んでいない。これと言った理由もないが、何ででしょう？自分でもよく解らない。“椎名さん、映画もいいけどエッセイもね”（←深い意味はない。）それじゃあお前はいつたい何を読んでるんだ！と言われそうだが、答はマンガ、雑誌。そしてやはり“専門書”（これホント。ただし卒研用。5年生はたいへんなのですヨ、皆サン。←ウソバレバレである）

本題に入ろう。あえて自分から金を出してまで読もうと思うもの。それは歴史小説である。歴史物の何が面白いのか。それは、それらの本の中から自分なりの歴史的事実、歴史の見解を見つけ出すことであり、文章を通して歴史を身近に感じられることにあると言えるだろう。

本来ならば、ここで何冊か本を薦めた方がいいのだろうが、ここで自分が薦めた本を買った人から“つまんなかったぞ！”などとクレームが来られると、とつてもうつとうしいので、あえて“この本”と紹介はしない。

皆が自分の興味ある時代、人物について書いてあるものを探し読むのが一番だろう。皆が面白い本に出会えることを祈りつつ、終わるとしましようか。(たとえ終わり方が誰かに似てるとしても気にしないようにしよう。!! 気のせいだ。)



★★FREE TALK★★

今回の目玉企画“FREE TALK”。今回は図書館非常勤職員の学生諸君に、自由に語っていただきました。なお、当人達の希望もあり、イニシャル(T, Y, O, W)で表記したことをあらかじめご了承ください。

では、題して“ただポーッと座ってジュース飲んでる訳ではないのですよ皆さん”

T: 今回は4人の方々に、毎週土曜日に図書館で非常勤職員として働いていて、学生に対して感じたことなどを、まあ、気楽に語っていただこうかなと。そういうことですね。

Y: じゃあね、まず土曜日は人がくる日とこない日とがあるのよ。テスト期間中やテスト前とかは意外と多いね。

W: じゃっかんね。(笑)

T: だけどテスト前だけ来られてもイラツクよね。

O: テスト勉強図書館でやって能率上がんの

Y: 静かだから上がるんじゃない?

T: いやー結構うるせーぞ。

Y: そんなにうるせーつてことはねーよ。

うちらんときは静かだよ。

W: うーん。

O: でも1年の女子はうるせーぞ。

Y: そうなの? でもうちらん時は図書館だと静かにしなくちゃいけないからつて言つて教室で勉強してる娘がいるんだっけ。

T: 教室でやってんの?

Y: うん。しゃべりながら勉強? 騒ぎながら勉強つて言うの?

T: 騒ぎながら勉強できんのかよ。

W: 要はしてねーんじゃねえ。

Y: いや、騒ぐつていうより、図書館じゃ色々話しながら出来ないから教室でやるみたい。結構そういう人多いみたい。だからうちらん時は割と静かなんだわ。

W: 割とね。

O: 一人じゃ出来ねーの?

T: 何でだべね。頭悪いから人に聞きたいんじゃねえ。

Y: …そこまで言う。

W: 今の言つちやいけないよね。

T: ん、本当のことじゃん。たいしたことねーつて。バレやしねーつて。(バレ)

Y: あと意外と多いのが土足。でもあの貼紙作つたら何か少なくなったんだわ。意外と

O: ああ、それはある。いつも朝新聞やつてる時“土足はダメだ”つて言ってるんだけど、貼紙貼つてからじゃないかな。

少なくなったの。

W: 本当?



T: どこに貼つてあんの?

Y: あの入口んところ。

O: 土足禁止!

Y: “土足”と“飲酒”禁止!

T: 知らなかった俺。(笑)



W: 飲酒?

Y: 飲食だな! 飲酒だつたら酒のみになつちゃう。(笑)

T: 飲酒はマズイよね。喫煙もマズイよね。

Y: まーね。あとアメなめるくらいならね、いいけどね、堂々と缶ジュース机の上にあげて図書館内で勉強してて、本にジュースとかかけられると、後で使う人が困るよね。

T: ジュースかけてんのかよ。

Y: いや、もしこぼした人がいるじゃん。

O: 間違つてね。

Y: わざとだつたらね。チョットね。

T: 本開いたら“何だーこれは”みたいなの。

(笑)
W：だったらちよつと困るって。
(笑)
Y：あとね、本返す時。俺ね、真面目にさ、本の整理一時間ぐらいやってるのよ。……いきなり拍手喝采……
Y：で、やってるんだけど、きちんと返さないんだっけ。
T：あ、それね、この前のビブリアで俺がさほら、番号あるじゃん。913とか123とか0077とか…
O：0077は電話だつて。
T：あるじゃんとにかく。それみんな知らないでしょ？それ載せて、整理するのに楽になるようにしようと思ったんだけど、いつの間にか、お流れになったんだよ。
全：それいけねーな。それ載せなきや。
T：(大声で)ハッキリ言います！番号があります！番号の下にアルファベットもあります！
W：そーなんだよなー。
T：番号とアルファベットで並べなさい！
全：フムフム！
T：ちゃんと並べて欲しいよね。一応上の方は目につくからまだいいけどさ、たまに下の書庫に行くとすごいよね。
Y：結構俺も並べに行くけど。
T：今、学生図書委員が毎週月曜日に交替で図書館で手伝いしてるんだわ。
W：活動してんだ。
T：で、今本の並べ替えをやってるんだわ。だから最近結構地下の書庫は楽なんだわ。
全：フーン！
T：俺も行ってるよ。月イチだけど(←一応コイツは図書委員)
Y：フーン……でこの学校の図書館は？新しい本ねーよ。専門書がね。
W：一応入ってるのは入ってるよ。
Y：そんなにねーよ。
T：一応予算してもんが……
Y：ま、予算はあるだろうけど、新しい専門書欲しいよね。高い本もね。

T：んー。高い本は…買えないの？
O：買って読まねーからじゃねえ。
T：高いの買ってさ、図書館側としてもさ、一人二人しか読まない本を買ってもね。買った意味ないし…
W：そんなもんじゃないの？専門書って。
T：俺も現場じゃないから知らないけどさ。色々あるんじゃないの？国立だしさ。
W：そろそろ新しいビデオテープ欲しいよね。
O：見るものなくなってきたよね。
T：もう誰も見なくなったようなヤツは消しちゃえばいいのにな。 “タバコの害”とか “シンナーの害”とか、 “覚醒剤の害”とかさ。(笑) だけど消せねーんだよなー。これは。
Y：あと読みたい本があったら、どんどん図書の方に言った方がいいよ。
T：“炎立つ”の4巻。あれは俺がしつこく言っていれてもらった。
全：フーン！
T：バイトの当番日誌にも書きました。
全：ホー！
T：係長買ってくれました。
全：違うね係長！
T：雑誌もさ、ちゃんと最新刊を上にして欲しいよね。で昔のは中に入れる、と。
Y：あと、雑誌をだまってもていかないように、と。
O：“ムー”の付録の“占いセット”をもつてった奴もいるぞ。
全：(大爆笑)
Y：付録とかポスターとかもつてつちやまずいよね。
W：欲しいなら自分で買えよ。
T：でなかなか本返さない奴いるよね。
Y：なくしたんじゃない？
W：弁償しろよ！
Y：1回弁償しました。(笑)
O：借りてた本がどこ探してもないから弁償かーとか思ってたなら、図書館にあった。
全：(笑)
T：とにかく、本をなくした人は、素直に弁

償しましょう。その本を探してる人がいる
かも知れませんので。

O: 多分ね。

T: 貸出禁止の本を写すのにさ、大変だから
コピー機を入れて欲しいっていうのがある
のよ。

O: 自分で写せば?

Y: 入れても使い方が雑になるからダメだよ
入れてもテスト前混むしね。

W: 散らかるしね。

Y: しょうがないから図書館で自分で写しな
さい。

T: テスト前だけ来るから悪いんだよなあ。

Y: でさ、貸出禁止の本のページ破る奴がい
るのよ。

全: スゲー! ツワ者ダー! (笑)

Y: いや、本当に。本読んでてページがなく
てアレー! みたいな。(笑)

全: アホだー

Y: 2階の辞書の一部ないよ、百科辞典とか。

W: そんな事するなら前から勉強しとけよ!

全: やめろよ! マジで!

T: ま、とにかく、本は読んだらちゃんと元
の位置に番号どーり戻しましょうと。

Y: それやってくれないと時給働いてる俺
ら大変なんだっけ。

T: ただボーッと座ってジュース飲んでる訳
ではないんですよ。皆さん! …確かにそう
だって言う意見もあるけど? (笑)

全: (笑)

O: あと1つあるんだけど、本のある場所を
聞かないで欲しい。

Y: そんなのあんの?

O: “〇〇の本どこにあんだ?” って聞かれ
て、“下にあると思います” って言ったら
探したけどなかったみたいで、“ネーベ
よー”とか言ってつかかかってきたバカが
いたんだっけ。自分で探せよ! スゲー
ムカツいた! そいつガラス戸2回足でけ
つとばしたんよ。

T: 割ったら弁償だよネ。高いぞー!

W: アホだー!

Y: 今はコンピューターの検索がありますか
らね。

T: 詳しくは前のビブリアを見ましょう!
私のナイスなイラスト付で使い方が書いて
あります!

Y: で本は分類されて並べてありますんで。
分類法については図書館の中にもかいてあ
りますんで。

T: 一応これも活用していただけると、時給
@@@円で働いてる私たちとしてはうれし
いですネ。

O: あんまり値段のことは言わないほうがい
いんじゃない? “あいつら@@@円貰って
んのに仕事してない” って思われるよ。

T: …やってますよね。

W: …つもりでしょ! (笑)

T: まあとにかく、図書館はね、みんなで使
うものですからね。確かに静かに勉強する
環境ですけど、あんまり深く考えずにね。
だから皆さん図書館を使いましょうと。

Y: 土曜日以外にね?

全: (笑)

T: けっこー今のよかった。テスト前になっ
て慌てて図書館に来ることのないように、
そしてキレイに使いましょう。と!

W: そーだね。

T: ということで、皆さんお疲れさまでした。



私の推す一冊

《「あすなろ物語」 井上靖著》

工業化学科 四年 宮澤 恵

「あすは檜になろう、あすは檜になろうと一生懸命考えている木よ。でも、永久に檜にはなれないんだって！それであすなろと言うのよ」、幼い日に冴子という少女からこの悲しい説話を教えられた梶鮎太少年の少年期から壮年期までの成長が、翌檜の説話に託され六編で綴られています。

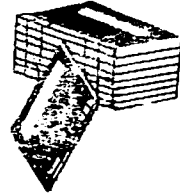
その中でも私は第一話目の「深い深い雪の中で」に強い印象を受めました。ここに登場する冴子という少女が大変に綺麗です。表情、仕草、立ち振舞いの全てがきらきらと綺麗で清らかです。この少女は作品中で「蛾」に例えられているくらいで芳しくない評判の少女なのですが、それさえも綺麗です。冴子は、鮎太少年に「克己」という言葉を教えてくれた大学生加島と心中してしまいます。

その死に対して鮎太の受けた得体の知れない衝撃が、得体の知れないままこちらにも伝わって来て、鮮烈で強烈な残像が残りました。この章は言わばこの物語の導入部に当たるわけですが、私にはこの物語全体を支配しているように感じられ、他の話が全てかすんで見えてしまいました。

この物語は必ずしも井上靖氏の自伝小説ではありませんが、その設定や生き立ちなど氏の実際に類似している処が多く、氏の魂に刻印されていた何か事実と虚構を交えて描いていると言え、氏の感受性の自伝小説ということが出来ると思います。また、この作品を読むに当たって短編「あすなろう」、自伝小説の「しろばんば」「夏草冬濤」「北の海」を併読しますと更に興味深く読み進められることと思います。

井上靖氏の作品中、恋愛小説、歴史小説、随筆、詩等、全てに共通して流れているもの

は清純さと品格であり、それが氏の作品の大きな魅力になっていると言えると思います。



《「夏への扉」 R・A・ハインライン著》

土木工学科 3年 渡辺 桂子

SF小説を読む方なら、一度は読んだことがあると思います。アーサー・C・クラークと同じように著名な小説家です。

この話は、タイムマシンやコールドスリープ使って、過去や未来を行き来するものです。話の中で何度か時間旅行（と呼ぶにはあまりにもあわただしいものですが）をするうち、主人公は2人になってしまいます。現在に未来からもう一人の自分がやって来ることによって、一人の人間が二人になるのですが、未来から、過去へ行くことはできても現在から未来に行くことはできない（現在にはタイムマシンがない！）ので、コールドスリープを使用して未来にもどるのです。未来からきた自分はハッピーエンドをむかえますが、もともと現在にいた自分はいわゆるのたれ死にしてしまいます。

読んでいると、混乱してしまいますが、何度も小説を読むと理解できると思います。コールドスリープは、現在、すでに完成しています。ただ、未来でも現在の地位が保てるかどうかわかりませんが、永久に眠らされるかも知れませんが、見捨てられてしまうかも知れません。コールドスリープを使用した人へのアフターケアの部分も小説に出ています、本当にその通りにしてもらえるのかどうか。時空のひずみをのぞいて見たい方におすすめです。

《1973年のピンボール 村上春樹著》
機械工学科 2年 阿部 和人

今回、私は村上春樹の「風の歌を聴け」、
「1973年のピンボール」、「羊をめぐる
冒険」、と続く三部作のうち、第二弾となっ
た「1973年のピンボール」という本を推
したい。

この小説は、1973年9月に始まり、そ
の年11月に終わる。この3カ月間の「秋」
という限られた季節の中で起きた、中心人物
的存在である「僕」と、700キロも離れた
街に住む友人で、「鼠」と呼ばれる男のほろ
苦い青春が描かれている話です。

「僕」は、突然現れる双子の姉妹との出会
いがあり、奇妙な日々を過ごし、今まで見え
なかった周囲の出来事が見えるようになり、
やがて、別れが訪れる。

一方、「鼠」は、一人の女性に出会い、彼
女との関わりが、日常生活の中にだんだん膨
らんでいき、心の中に長い間忘れていた「優
しさ」のようなものが広がっていったが、や
がて、別れが訪れて彼は行き場所のない苦し
みを味わう。

彼らには、形は違うが、それぞれの「出会
い」があり、最後には、それぞれの「別れ」
が訪れる。彼らの経験した「出会い」と「別
れ」が「秋」という一つの季節の「美しさ」
と「悲しさ」を上手に描いている。

最後に、彼らの美しく、悲しい「秋」の青
春が感じられたら、この作品以外の二作品に
も出てくる彼らのほろ苦い青春を季節ととも
に感じてみてほしいと思います。

《ビートたけしの「浅草キッド」》
電気工学科 1年 大高 裕幸

僕が皆さんにお勧めする本は、新潮文庫出
版、作者・ビートたけし（北野たけし）の浅
草キッドです。ビートたけしといえば、テレ
ビなどで大活躍しているお笑いスターという

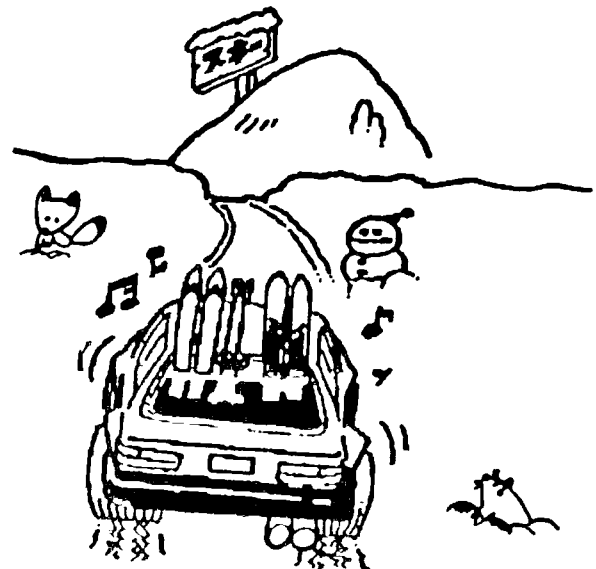
ことを、皆さん既に知ってると思いますが、
この本は、ビートたけしがデビューする前の
波乱に満ちた人生が書いてあります。

もう少し詳しく説明すると、昭和四十七年、
明治大学・工学部を中退したビートたけしは、
浅草フランス座というストリップ劇場に入門
する。そこで、深見千三郎に弟子入りする
という話から始まります。

そのほかにも面白い所がたくさんありま
すが、これ以上書くと、読む前に内容がわか
ってしまったり、八百字以上を超えてしま
う可能性がありますので、内容の紹介は、
これ位で終わりにさせていただきます。

ビートたけしは、今は大スターになった
けど、デビューする前は、浅草フランス座
で雑用係のように役者に使われていたこと
と、デビューをしてもすぐにうれたわけ
ではなかったことが、この本を読んで初めて
わかり、何でも成功させるためには努力が
必要だということを感じました。

ちなみに、この本は、僕が中学三年生の
時に友達に勧められて買いました。最初は、
半信半疑でしたが、読んでみると、とても
面白いので一日で読み終えてしまいました。
この本なら内容も難しくないの、読書が
嫌いな人でも楽しめると思います。



図書館だより

☆ クラス別図書帯出冊数 (平成5年 4月～12月)

| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 計 |
|-------|-----|-----|-----|------|-----|------|
| 機械工学科 | 12 | 267 | 331 | 221 | 159 | 990 |
| 電気工学科 | 36 | 129 | 300 | 304 | 359 | 1128 |
| 工業工学科 | 98 | 248 | 281 | 417 | 58 | 1102 |
| 土木工学科 | 21 | 208 | 54 | 59 | 132 | 474 |
| 計 | 167 | 852 | 966 | 1001 | 708 | 3694 |

☆ 図書別貸出回数ベスト10 (平成5年 4月～12月)

| | | |
|---|-------------------|------------------|
| 1 | 化学大辞典 1 | (16) |
| 2 | 化学大辞典 8 | (14) |
| 3 | 基礎からよくわかる微分・積分 | 野口広著 (12) |
| 3 | 明け方の夢 上下 | シドニイ・シェルダン著 (12) |
| 4 | 基礎からよくわかる化学 | 野村祐次郎著 (11) |
| 4 | 五番目のサリー | ダニエル・キース著 (11) |
| 4 | 大人のための残酷童話 | 倉橋由美子著 (11) |
| 5 | 機械・仕上げの総合研究 | (10) |
| 6 | 板金・溶接の総合研究 | (9) |
| 6 | 基礎からの物理 | 力武常次ほか著 (9) |
| 6 | 図解とフローチャートによる定量分析 | 浅田誠一著 (9) |

☆ 個人別貸出冊数ベスト10 (平成5年 4月～12月)

| | | | | | |
|---|-------------|-----|----|--------------|-----|
| 1 | 加古 晶 (機械3年) | 97冊 | 7 | 蓬田幸二 (電気5年) | 51冊 |
| 2 | 寺岡大二 (土木5年) | 72冊 | 7 | 伊藤省吾 (電気5年) | 51冊 |
| 3 | 小松留美 (土木2年) | 64冊 | 7 | 檀木裕次郎 (電気2年) | 51冊 |
| 4 | 守岡宗典 (機械3年) | 59冊 | 10 | 高橋 淳 (電気4年) | 50冊 |
| 5 | 小林裕和 (電気5年) | 57冊 | 10 | 馬上奈緒 (化学3年) | 50冊 |
| 5 | 矢吹益久 (機械4年) | 57冊 | | | |

☆☆ **学年末休業特別貸出について** ☆☆

下記の通り実施致します。

特別貸出開始 . . . 平成6年2月24日 (木)
貸出限度冊数 . . . 1人5冊まで
返却期限 . . . 平成6年4月12日 (火)

- ◎ 現在帯出している図書で引続き必要な場合は、カウンターで継続手続きを行うこと。また、1人で長期間独占しないよう期日には必ず返却してください。

◎ **学年末休業期間中は、**

[平成6年3月10日(木)～平成6年4月7日(木)]

閉館いたします。

☆☆ **5年生全員へのお知らせ** ☆☆

**帯出図書・卒業研究用帯出図書を
2月25日(金)までに返却して下さい。**

- ◎ 期日までに返納できない場合は、その旨を図書係に連絡して下さい。なお、連絡がないときは、保護者あるいは保証人宛に督促状を発送する予定です。

図書館長

平成5年度図書委員

図書館長 渡辺洋太郎 (一般教科)
副館長 (ビブリア担当) 西山 公紀 (一般教科)

委員 中山 淳一 (機械工学科) 村田 進 (電気工学科)
高橋 辰男 (工業化学科) 高橋 邦雄 (土木工学科)

後期学生委員

| | | | |
|-----------|------------|------------|------------|
| 1 M 鈴木 匡 | 1 E 大高裕幸 | * 1 C 高木厚志 | 1 土 渋谷健二 |
| 二階堂誠 | | | |
| 2 M 阿部和人 | 2 E 山田寛章 | * 2 C 酒井友子 | 2 土 佐藤 嵩 |
| 3 M 中川 淳 | * 3 E 四條浩貴 | 3 C 小沢大作 | 3 土 菊原通彰 |
| 4 M 宮澤啓一郎 | 4 E 大平徳幸 | * 4 C 柴田公彦 | 4 土 公平 学 |
| 5 M 坪井正一 | 5 E 藤井慎一 | 5 C 深谷雄大 | * 5 土 寺岡大二 |

(* 印はビブリア編集委員)

編集後記

今回は『在校生に薦める本』というテーマで5年生各科2名ずつ、合計10名に寄稿してもらいました。また図書館利用の現状を学生の目で捉えた『FREE TALK』を新たに企画しましたのでぜひご覧下さい。

後期になり学生図書委員とビブリア担当委員に若干変更がありましたが、5名の学生編集委員のほか数名の協力を得てほぼ予定どおりに発行できることになりました。様々な企画とそのユニークなイラストで編集部のみんなをリードしてきた5年のT君も卒業となり、そのバトンも4年のS君にタッチされました。またカットを見つけてくれた美術部のIさんの協力にも感謝しなければなりません。編集に興味のある方々の参加を歓迎します。

購入希望の図書がありましたら、最寄りの図書委員を通じてあるいは直接図書係に申し込んで下さい。